

Z字型に方向転換しながら急勾配を登る

# 三段式スイッチバック

島根県奥出雲町

広島県庄原市の備後落合駅と島根県松江市の宍道駅を結ぶJR木次線。元は「たたら製鉄」で財をなした絲原家が、「近代製鉄によって製鉄が衰退しても、鉄道があれば新たな産業が生まれる」と地元有志を募って推進し、大正5年(1916)に宍道—木次間が開業した鉢上鉄道です。その後昭和9年(1934)に国鉄経営となり、同12年に八川から備後落合間が開通したため山陽側の芸備線とようやくつながりました。地元の願いを託された木次線は、沿線の「木炭」輸送で地域を支えたといわれています。

奥出雲町出雲坂根駅(標高564m)から三井野原駅(標高726m)まで直線距離では1km程ですが、162mの標高差を上る必要がありました。このため、2回にわたって列車の進行方向を前後逆にしながら上っていく三段式スイッチバックと9本のトンネル(両駅間距離:約6.4km)で三井野原駅まで建設されました。JR西日本管内ではここだけで見ることができる折り返し方式です。八川駅から出雲坂根駅に向う「奥出雲おろち号」は、写真1のように客車が先頭で白のヘッドライトが点灯していますが、次に2段目スイッチバックに向かう時は客車が後ろになるため赤いテールランプが点灯しています(写真2)。

地元の大きな期待を抱いて山陽側とつながった木次線でしたが、おろちループ(国道314号)や高速道路の整備などにより、人・モノの移動は鉄道から道路へと変わっています。現在、JR木次線(出雲横田~備後落合)は一日3往復というダイヤ編成ですが、中山間地域の重要な公共交通として、通学や買物などに利用されています。あわせて豊かな自然景観をはじめ温泉や食の恵みなど沿線に多くの地域資源を有する路線で、4月から11月の週末には、トロッコ列車「奥出雲おろち号」も1日1往復運行されています。

100年以上前に地域の繁栄を願って開業した鉄道が、観光という地域振興に新たなチャレンジです。かつてスイッチバックを上った蒸気機関車C56-108も、木次体育館横(雲南市)で応援しています。



おろちループを見下ろしながら走るトロッコ列車「奥出雲おろち号」

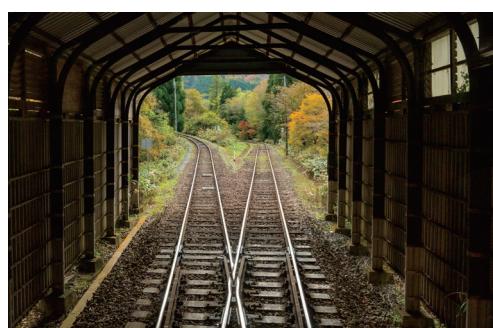
## ■位置図



木次方面よりスイッチバック1段目を登って出雲坂根駅へ向かう上り列車(写真1)



出雲坂根駅(標高564m)より30%のスイッチバック2段目で三井野原駅(標高726m)に向かう奥出雲おろち号(写真2)



スイッチバック3段目(左)と2段目(右)の折り返し地点。積雪からポイントを守るために屋根が設置されている。

※ 4月~11月は金・土・日曜日、祝日。ただし夏休み・紅葉シーズンは毎日、運行。